



7月24日

発行

作新学院大学
作新学院大学女子短期大学部〒321-3295 栃木県
宇都宮市竹下町908
電話 028-667-7111
FAX 028-667-7110

編集兼発行人 橋立 達夫

編集
作新PRIDEプロジェクトチームお電話相談窓口はこちら
大学・短大 TEL028-670-

教務課(定期試験・各種証明書発行) 3642
 学生課(奨学金・学生生活相談) 3641
 会計課(学納金・経費支払等) 3621
 キャリア・就職支援課(求人募集・就職についての相談) 3645
 総務課(人事・務関係) 3600
 入試・広報課(受験相談・資料請求) 3655
 図書課(図書等の所蔵・貸し出し) 3652
 地域連携支援センター(大学付属研究所) 3614
 学修支援室(学内ネットワーク・情報機器の管理) 3616

HEADLINE

学長コラム……………1頁
 新・経営学部開設記念&オリンピック招致シンポジウム……………1頁
 今年で12回目!!恒例の七夕祭り……………1頁
 日本語講座『これ、知ってっか!?』……………1頁
 臨床心理士資格認定試験合格者体験談報告会……………2頁
 清原キャンパスアスト『木の魅力』……………2頁
 イベントスケジュール 7・8月……………2頁
 編集後記……………2頁

ホームページ
アドレス

http://www.sakushin-u.ac.jp/

新・経営学部開設記念&オリンピック招致シンポジウム

学科新設を控えスポーツ関係者ら

「スポーツマネジメント」議論

経営

作新学院大学は、2014年度より経営学部新たにスポーツマネジメント学科を開設することになりました。学科新設を控え7月17日、『新・経営学部開設記念&オリンピック招致シンポジウム』を開催し、株式会社デサント取締役・戸井田朋之氏に「オリンピック招致を含むスポーツマーケティング」と題し基調講演をして頂きました。パネリストとして戸井田氏、ゼビオ株式会社常務執行役員・中村孝昭氏、株式会社栃木サッカークラブ代表取締役社長・中津正修氏、宇都宮ブ

日々新たに、昨日よりも一歩前へ!!



作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部 学長
太田 周

広報紙「燦 KIRARI」は、本学の魅力を広く知っていただく事を第一の目的としています。本学の使命は、社会の期待に応えられる人材の育成です。社会は常に変化し、時代は前進を続けています。私たち大学・短大も、その進歩に遅れる事なく改革を進めて行かねばなりません。来年度、経営学部は改組して2学科体制となります。新しい「スポーツマネジメント学科」では、プロスポーツの盛んな栃木県の活力源となる人材を育てたいと考えています。

短大から大学院まで、高校生から社会人の方まで、本学は皆様の「学びたい」という気持ちと真剣に向き合っています。夏のオープンキャンパスにはぜひお越しいただき、本学の「学びの良さ」を感じて下さい。



リッツエンゼネラルマネージャー・廣瀬正氏の四氏を迎え、本学准教授・小山さなえを加えて、コーディネーターを本学副学長・矢作恒雄が務めました。プロスポーツを経営していく上でのマネジメントの重要性や栃木の地域性に合ったマネジメントの必要性について活発な議論が交わされました。県内4つのプロスポーツと行政・地域が一体となった連携・協働の推進に向けて、本学としてもその一翼を担えるよう努力していく所存です。

作短の元気!!

夢をめざして

短大

今年で12回目!!恒例の七夕祭り
 保育者をめざし、勉強に、実習に、そしてサークル活動やボランティア活動など、作短生は日々忙しくも元気一杯の学生生活を送っています。

作短の2年生は、6月に幼稚園での実習を終えました。夏休み期間中には、保育所での実習と福祉施設での実習が予定されています。まさに「夏休み返上」なのですが、この頑張りこそが、作短の就職率100%を支えているのです。

保育者への夢に一歩一歩と近づいている作短生のひとり、7月4日に行われた『七夕祭り』実行委員長を務めた2年生の大貫旬子さんは「実習は、子ど



もたちと直接ふれ合えるから、とても楽しいです。昨年の9月にも幼稚園で一度実習をしています。その時よりも二度目の今年は保育に関する知識が増え、色々な場面でも子どもへの声かけなど上手にできるようになりました。実習先でお世話になった先生方からのご指導を忘れず、これからもしっかり勉強していきたいです。」と幼稚園での実習の手ごたえと今後の抱負を語ってくれました。

これ、知ってっか?!

日本語講座(慣用句)

「色めがねで見る」

- この「こ」の意味は、次のうちどれでしょう。また、類似語にはどんな言葉があるでしょうか。
- ①何でも相手の言うことに反対すること。
 - ②普段は見逃してしまいうような細かいところまで問題にする。
 - ③人から聞いた話などから、偏った見方をする。

答えはWebで▶▶▶ <http://sakushin-u.ac.jp/answer/2013-78/>

テレビ放送のお知らせ

とちぎテレビ3chで紹介されます!!

とちぎテレビのスペシャル情報番組『2013県内キャンパス情報』で本学が紹介されます。詳しくは、とちぎテレビ特設サイト <http://tochigitv-campus.info/> までどうぞ。

日時

8月18日(日) 20:15▶21:15 (内10分程度)

番組名

『2013県内キャンパス情報』

※放送局の都合により変更する場合がございます。



臨床心理士資格認定試験 合格者体験談報告会

間文化
2013年
6月29日(土)

臨床心理士資格認定試験
合格者体験談報告会
が開催されました。

本学大学院心理学研究科は臨床心理士受験資格の大学院指定(二種)を受けており、25人の臨床心理士を輩出しています。修了生の多くが県内外の各種施設で、青少年のさまざまな悩みを受け止める「こころの専門家」として活躍しています。

こうした修了生たちに学ぼうと、「臨床心理士資格認定試験合格者体験談報告会」が開催されました。

報告会では修了生3人(うち2人は本学・人間文化学部の卒業生)が登壇し、資格試験の対策など具体的な事例もまじえた報告がなされました。報告の後には熱のこもった質疑がなされ、充実した報告会となりました。



報告者のひとり松沼達典さん(2008年学部卒、2010年院修了)は「臨床心理士として仕事をするこの意味やその責任についてあらためて考えさせられたのと同時に、人間文化学部に入學して学部から大学院まで同じ環境で心理学を学べたことの良さを再確認することができました」と満足そうに語ってくれました。

修了生の今後の活躍、どうぞご期待ください。

管理棟正面玄関を入ると「作新民」という建学の精神を伝えるかのように木彫りの龍が来学される方を迎えています。

この木彫りの龍は、本学経営学部の1期生である小林哲二さん(1993年卒業)による「チェンソーアート」の作品です。

小林さんは卒業後、民間企業で営業職として勤めていましたが、自分が本当にやりたいことは何かをずっと考えていたそうです。

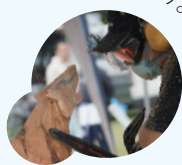
そんな思いの中、2006年、魂を揺さぶられるほどの衝撃を受けた雑誌の「チェンソーアート」の特集。重いチェンソーを巧みに扱い1本の丸太から短時間で作品を作り上げ、完成した作品はまるで魂があるかのように、熱い何かを感じたそうです。

その翌年、念願がなってチェンソーアートの第一人者、城所ケイジさん(2005年世界チャンピオン)に師事。チェンソーアートの技術、自然界で育つ木の魅力、山の素晴らしさ等、教わりました。

小林さんは「これからもチェンソー



作品を中央に記念撮影をする
太田学長(左)と小林さん(右)。



アートの活動を続けながら、素材となる木の魅力や温もり、その木を育む山の素晴らしさ等、もっと多くの方に伝えていきたい」と意気込みを語ってくれました。

今後の活動に期待です。

「木の魅力」 小林哲二作



シリーズ② 清原 キャンパスアート

イベント スケジュール

7・8月の行事予定

★オープンキャンパス★

27日 10時30分～14時

28日 10時30分～14時

8月

★サタデーキャンパス★

3日 10時～12時 (要予約)

★教員免許状更新講習★

3日～10日

★学校図書館司書教諭講習★

5日～9日、19日～22日

★オープンキャンパス★

25日 10時～12時 (要予約)

事務局夏季休業のお知らせ

8月10日(土)～18日(日)まで、作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部事務局及び図書館は、夏季休暇のため休業となります。(詳細は、本学ホームページをご覧ください)

総務課、入試・広報課の窓口業務もお休みとなりますのでご注意ください。

※作新学院大学図書館は、地域の方々にも学習・調査・読書等、幅広い分野に活用していただけるよう、一般の

編集後記

猛暑の中、参議院議員選挙が終わり、大学は前期期末試験を残すばかりとなりました。

8月に入ると9月半ばまでの夏休みに突入します。そういうわけで「燦-KIRARI」第2号は7・8月合併号とさせていただきます。

大学の中はどんな世界なのか、外から見てもなかなか分かりにくいと思いますが、約1500名の若者と100名の教職員の世界では、日々、様々なことが起こります。その一端を見ていただきたいと作っているのが本紙です。どうぞお楽しみください。大学のご存知りたいなどのご意見、ご投稿もお待ちしております。



方々へも開放していますが、この夏季休業期間中、図書館の利用ができません。(返却は受付けています。図書館外に設置しています返却ボックスに直接ご投函ください)

ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。